茨城県議会議長賞・鹿島アントラーズ賞・優秀賞

僕のミッション～水戸の自然を守る～

水戸市立第一中学校　一年
井上匠基

「絶対に昆虫学者になる！」そう心に決めたのは小学校二年生の夏です。小さい頃から虫が好きだった僕は、昆虫採集と標本作りの行事に参加しました。講師はミュージアムパーク茨城県自然博物館の学芸員の先生で、昆虫採集をしながら、図鑑には載っていないような事を教えてくれました。県内から集まった虫好きの子供達の質問にも分かりやすく答えてくれる楽しい先生で、それからはその先生が僕のあこがれの存在となりました。

「虫」と聞いて苦手だなと思う人も多いでしょう。けれども虫は他の生物よりも人間にとって身近な生物なのです。そして他の生物に比べて多様性に富んでいます。さらに種類が多く、日々新種が発見されています。しかし残念なことに、絶滅が危惧される昆虫も少なくありません。それは人間と大きく関係しています。森林伐採や大気汚染、地球温暖化などの環境問題を解決するには、環境に上手く適応し、生き抜いてきた昆虫達から学ぶことは多いと思っています。

最初に買った『昆虫』というポケット図鑑はボロボロになるまで愛用し、自宅には約四十冊の昆虫関係の本を持っていますが、本だけでは分からないことも多いです。そのため実際に外に出て観察するフィールドワークを大切にしています。本で学んだ知識を自分の目で確かめるいい機会でもあるし、毎回発見があって楽しいです。

小学校五年生の自由研究から「クロオオアリ」について研究を進めています。アリの研究者は多いですが、まだ分かっていないことはたくさんあります。アリは狩猟採集や

農業、建築、共生などを人間よりはるか昔から行なっています。最初は市販のキットを使って観察していましたが、自然に近い形ではありません。そこで兵庫県の昆虫館に問い合わせたところ、夏休みに詳しく教えてもらえることになりました。その先生は、僕が使っていた図鑑の筆者で、とても忙しい中僕のために時間を作ってくださって、アリの飼い方や昆虫学者になるためのアドバイスを頂きました。「昆虫学者になるのは大変だけれど、本当にやりたいと思っているならば、好きだと思うことをとことんやればいいよ。」と言って下さいました。僕はその言葉を聞いて、がんばろうと思いました。そして昨年の自由研究では「女王アリの子育てと巣作り・働きアリだけのコロニーと比較する」というテーマで、水戸市では金賞、ブロック展では銀賞を頂くことができました。毎日世話をしながら観察をし、記録をしてまとめる作業は本当に大変だったけれども、賞を頂いたことで少し自信がついたと思います。

僕は大阪生まれですが二才の時から水戸に住んでいます。水戸市は自然豊かな場所が多く、都会では見られないような昆虫も多数生存しています。けれども、住宅開発や公園の整備、外来種の侵入などにより、生態系が崩されつつあります。

以前、日本最古の昆虫標本があると知って、東京大学内の博物館に行きました。素晴らしい標本が並んでいた最後の一列に、空の標本箱が縦に並んでいました。そこには「未来に向けて」という主催者からのメッセージが書かれていました。「最後に、ここで縦一列に展示された空の標本箱は、今後築かれる人と自然との未来を示したものである。～中略～標本箱を空のままであり続けないような未来を創り、そして子供や孫たちに貴重な自然や昆虫を残していくことは、今後の我々人類にとっても極めて重要なことであろう。」

僕一人では小さな力かもしれませんが、まずは生態系を守り水戸市の貴重な自然を大切にして、できるだけ記録をとり、今後の世代に引き継いでいければと思います。僕のミッションはまだ始まったばかりです。